



国際ロータリー2590地区

KAWASAKI ASAO ROTARY CLUB

川崎麻生ロータリークラブ

会長 鈴木 憲治

幹事 山上 剛史



大矢 紀

第 1482 回 例会記録 2025 年 2 月 14 日 (金) S.A.A.委員長 梅澤 馨

- 【開会点鐘】 鈴木 憲治 会長
- 【S.A.A】 鈴木 昭弘 委員
- 【例会場】 ホテルモリノ
- 【ソング】 ロータリーソング『それでこそロータリー』
- 【本日のお客様】 鈴木憲治 会長

◆齋藤 光宏 様 国際ロータリー第 2590 地区
職業奉仕委員会 委員 横浜緑 RC

※例会ご参加者 ◆ラ チンタクテン さん 米山奨学生

【奥様への花束贈呈】

佐々木範行会員へ奥様幸子様の誕生日
2/17 花束を贈呈。



【お見舞い兼快気祝】

入院、手術をされ、退院された佐々木範行会員へお見舞い金をお渡ししました(写真右上)。なお療養中の佐藤忠博会員は、もう少しかかるとのことでした。

【会長報告】 鈴木憲治 会長

1. ガバナー事務所より、

○2025-26 年度RI会長メッセージが発表

されました。『よいことのために手を取りあおう』

【改定】①「RI会長テーマ」(単年度の方針として発表)から継続性、一貫性のある「RI会長メッセージ」として発信していく。 ②ロゴマークはありません。

○『クラブ会長エレクト研修セミナー(PETS)』開催のご案内が届いております。3月18日(火)10:00~17:00

17:00~18:00 懇親会 登録料 12,000 円

※木村会長エレクト出席予定



○『地区研修・協議会本会議』開催のご案内が届いております。3月24日(月) 15:00~19:00 エポックなかはら(川崎市総合福祉センター) 登録料 10,000 円

2. R米山記念奨学会より、“ハイライトよねやま299号”のご案内が届いております。

3. 地区美術親睦活動グループより、『第 60 回ロータリアン展』のご案内が届いております。

3月20日(木) 17:00~19:00 ギャラリーパリ

【幹事報告】 山上剛史 幹事

◆例会変更 ○川崎宮前RC ○横浜南RC

【出席委員会】 鈴木眞一 委員長

例会	会員	出席	欠席	修正	出席率
1482 回	27	20	7		74.1%
1481 回	27	20	7	4	88.9%
1480 回	27	16	11	6	81.5%

【各委員会寄付】

委員会	第 1482 回(件数)	合計
ニコニコ委員会	18 件	¥19,000
R 財団委員会	1 件	¥15,000
米山記念奨学委員会	1 件	¥10,000

第 1 4 8 3 回 例会	2 月 2 1 日 (金) 創立記念例会	ホテルモリノ
第 1 4 8 4 回 例会	2 月 2 8 日 (金) 招聘卓話	ホテルモリノ
第 1 4 8 5 回 例会	3 月 7 日 (金) 定例理事会	ホテルモリノ

【例会日】 第 1・2・3・4 金曜日 12:30~13:30 【例会場】 ホテルモリノ 新百合丘 7F TEL: 044-953-5111

※第 5 金曜日 休会 連絡先: 川崎麻生ロータリークラブ事務所 TEL: 044-951-1322

【ニコニコ委員会 メッセージ】

碓井美枝子 委員長

【お客様】◇齋藤光宏様(横浜緑RC)

【本日は卓話で参りました。

よろしく願いいたします】

【会員】◇鈴木憲治会長【齋藤様本日は

卓話宜しくお祈いします】

◇山上剛史幹事【同文】

◇大野勉会員【齋藤委員さん、本日の卓話宜しくです】

◇青戸慶太会員 ◇碓井美枝子会員 ◇宇津木茂夫会員

◇梅澤馨会員 ◇梶俊夫会員 ◇木村良三会員

◇佐々木範行会員 ◇志村幸男会員 ◇鈴木眞一会員

◇鈴木豊成会員 ◇中山隆弘会員 ◇長瀬敏之会員

◇花輪孝一会員 ◇蓬田忠会員

以上、ご協力ありがとうございました。

【R財団委員会 メッセージ】

宇津木茂夫 委員長

◇宇津木茂夫会員

ご協力ありがとうございました。

【米山記念奨学委員会 メッセージ】

青戸慶太 委員長

◇宇津木茂夫会員

ご協力ありがとうございました。



■1915年に国際ロータリー連合会の哲学委員長 グレン・ミードが、A・F・シェルドンの principle (原理)を指して「あのサービスに関する理想的な原理」と呼んだ。

商売を成功させる経営理論

■“He profits most who serves (his fellows)best.”

■A・F・シェルドンのサービス理論の核心

■最善のサービス(貢献)をする者が、最多の利益を生む。

■(最もよく奉仕する者、最も多く報いられる)

■“Service above self.”

■シェルドンの書簡に触発されたB・F・コリンズ

■利己心よりもサービスの方が、むしろ多くの利益を生む。

■(超我の奉仕)

■Service(貢献)とProfit(利益)の因果関係を表す法則

THIS ROTARIAN AGE by PAUL HARRIS

ロータリーの理想と友愛(米山梅吉訳)から抜粋

■シェルドンが(ミシガン大学卒業後に)シカゴに出て来た時は(中略)シカゴの最悪時代であって、その混沌たる実業界の状態は、若きシェルドンの心に深刻なる感銘を与えずにはいなかった。

■美德には何等の報酬がなく、成功の機会は無慈悲な奪取、必要とあらば詐欺もあえて辞せざる如き印象に満ちていた当時であった。

■「消費者は自ら守れ」の原則が適用され、悪意と不信用とが実業上の競争を特質付けていた当時であり、被備者の福祉の如きは全然顧みられなかった当時であったが、シェルドンにかかる一般の通弊のうち或る注目すべき異例があることを発見したのである。

■それは寛容を以て適正公明に経営された商店または会社の中に、最も成功しているものがあるという事実であった。

■ここにおいて彼はその成功の秘訣が何処にあるかを考究した結果、従来の印象を次第に打消して新なる断定を下した。

■曰く永続的成功を保証する唯一の信頼すべき方途がある。よく他人のために尽すこと即ちサービスがそれであると。

■即ち成功は無慈悲なる貧(どん)らんや我利の根性に依存するのではなく、サービスの法則が適用される所から生れる不可避の結果だと信じたのである。彼の見た所ではサービスの法則は引力のそれの如く、厳として誤りのない自然の法則であった。

(中略)

■シェルドンの頭脳は、まさに「最もよくサービスをなす者は最も多くを利益す」の思想を鍛錬しておえていた。

綱領に記載されるに至る

■米山梅吉は 1918年、50歳でダラスのクラブに訪問し福

【招聘卓話】 職業奉仕について

鈴木憲治会長ご紹介 齋藤 光宏 様(横浜緑RC)

国際ロータリー第2590地区 職業奉仕委員会 委員

職業奉仕の定義

■ロータリアンそれぞれが、自分の職業生活に、現実的で合理的な企業原理(奉仕の理念
=the ideal of service)の応用と
いう原則を、推し進めること

「ロータリーの奉仕」について

■奉仕の原語は、英語の Service

■奉仕と Service は、元々はいずれも「仕えること」という意味であった。

■Service は産業革命を通して「①有益な働き」という意味と「②果たすべき努め」という意味を持った。

■「奉仕」は江戸時代に「無償の尽力」「見返りを求めない」「尽くす」という意味を持った。

■Service には「見返りを求めない」という意味はない。

■ロータリーにおいて原文を読む場合 Service を「貢献・役務・役目・任務・仕事・部門・訓練」などの意味で使われている。

奉仕の理念(奉仕の理想)

■原語は、”The Ideal of Service”



島喜三次を訪ねる。ロータリー運動に感銘し1920年に東京ロータリークラブを創設。

- 米山梅吉は”The Ideal of Service”を「サーヴィス理想」と訳したが、1934年の外国語禁止提案によりServiceを奉仕と置き換えたことにより奉仕の理想となり、2012年に奉仕の理念と変えられている。

ロータリーのObject（目標）

- 1922年「ロータリアンの個人生活・職業生活・社会生活におけるThe Ideal of Serviceの応用（適用）」というObject（目標）が掲げられた。
- すなわち、商売を成功させる経営理論から、The ideal of service という原理を抽出し、その原理を、ロータリアンの職業生活だけでなく、個人的な生活や社会的な生活にも応用していくことが考案された。

ロータリーの目的（The Object of Rotary）

- 「The Object of Rotary」は、当初はロータリーの綱領と訳され、2012年に「ロータリーの目的」と書き換えられた。

ロータリーと社会奉仕活動

- 1906年 シカゴ RC においてドナルドカーターの入会拒否事件発生
- 1907年 シカゴ RC は、シカゴ市の最大の利益を推進しシカゴ市民としての誇りと忠誠心を市民の間に広めることを定款に追加し、街の衛生改善のために公衆トイレ設置のニーズについて市民団体と協議する。
- 1909年 シカゴ市内に公衆トイレを設置したことを皮切りに、身体障害児の救済活動など活発な活動が展開される(Cf.エドガー・アレン)。
- 奉仕活動を実践するかサービス理論を実践するかの激しい対立

決議23-34の採択

- 1923年 セントルイス国際大会に提出され採択された34号議案
- 「綱領に基づく諸活動に関するロータリーの方針を再確認し、国際ロータリーとロータリー・クラブにおける今後の手引きとなる原則を定める件」
- 奉仕活動派とサービス理論派の対立を見事に解決したと言われている。
 - 1)ロータリーの奉仕理念
 - 2)ロータリークラブの役割
 - 3)国際ロータリーの役割
 - 4)実践哲学としてのロータリー
 - 5)ロータリークラブの自治権とRI
 - 6)社会奉仕活動実践の諸指針

(以下、省略して記載)

決議23-34の採択

- 奉仕活動派とサービス理論派の対立を見事に解決したと

言われている。

- 1)ロータリーの奉仕理念
- 2)ロータリークラブの役割
- 3)国際ロータリーの役割
- 4)実践哲学としてのロータリー
- 5)ロータリークラブの自治権とRI
- 6)社会奉仕活動実践の諸指針

決議23-34 序文（ロータリージャパンの訳文）

ロータリーにおいて社会奉仕とは、ロータリアンのすべてがその個人生活、事業生活、および社会生活に奉仕の理念を適用することを奨励、育成することである。

決議23-34 第1項（ロータリージャパンの訳文）

- ロータリーは、基本的には、一つの人生哲学であり、それは利己的な欲求と義務およびこれに伴う他人のために奉仕したいという感情とのあいだに常に存在する矛盾を和らげようとするものである。

- この哲学は奉仕—「超我の奉仕」の哲学であり、これは、「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」という実践的な倫理原則に基づくものである。

決議23-34 第6項g

クラブがひと固まりとなって行動するだけで足りるような事業よりも、広くすべてのロータリアンの個々の力を動員するもののほうがロータリーの精神によりかなっていると言える。それは、ロータリークラブでの社会奉仕活動は、ロータリークラブの会員に奉仕の訓練を施すために考えられたいわば研究室の実験としてのみこれを見るべきであるからである

まとめ

- 職業奉仕の定義は、決議23-34の序文に書いてある。
- 決議23-34では、職業奉仕とは、ロータリアンそれぞれが、自分の職業生活に、現実的で合理的な企業原理(奉仕の理念=the ideal of service)の応用という原則を、推し進めること(運動)と定義される。
- この企業原理(奉仕の理念=the ideal of service)は、職業生活だけでなく、個人生活においても、社会生活においても応用すること。
- ロータリーのサーヴィスの理論(哲学)を団体で学び、個々人でそれを応用すること。
- すなわち、ロータリークラブは「奉仕活動を目的とする団体」ではなく「サーヴィスの理論を学び、これを実践する人の集まり」である。

〈資料より抜粋、省略して掲載〉

鈴木憲治会長

「齋藤様 卓話を有難うございました。難しいですが、ロータリーのベースとなるお話をしていただきました。」

【四つのテスト】宇津木茂夫 会員 【閉会点鐘】鈴木憲治 会長

【会報委員会】蓬田忠 委員長 写真：梅澤馨 委員